



お口と体の深～い関係

糖尿病と歯周病

監修：沼部幸博（日本歯科大学生命歯学部歯周病学講座教授）



歯周病は歯肉に炎症を起こす感染症

歯周病は歯に付着するプラーク(歯垢)にすみつく「歯周病菌」の繁殖により起こる感染症で、歯の周りの歯肉に炎症を起こします。

放っておくと歯肉の炎症が広がり歯肉炎から歯周炎へと進み、歯根を支える顎の骨(歯槽骨)を溶かし、最後には歯が抜けてしまいます。また、血液などを介して歯周病菌や炎症物質は全身に広がります。

余った血糖が血管を傷つける糖尿病

体のエネルギー源となる「血糖」が使い切れず、血液中で一定値以上になっている状態を「高血糖」といい、それが続くようになると「糖尿病」と診断されます。

過剰な血糖は変質して、体中の神経や血管を傷つけます。そのため、末梢神経障害や網膜症、腎症といった3大合併症を起こしたり、心臓病や脳卒中など、生命を脅かす病気へとつながったりします。

糖尿病と歯周病は相互に関係

糖尿病の患者さんでは、歯周病が重症になりやすいことがわかっています。また、歯周病の治療を行うと、血糖値がある程度改善することわかっています。

歯周病と糖尿病は両方ケアすることが必要!

歯周病が悪化すると歯肉の炎症が拡大する



歯肉の炎症が持続すると血中のTNF- α という炎症物質が増え、膵臓から出る血糖値を下げる働きを持つホルモン(インスリン)の働きを妨げ、「インスリン抵抗性」という状態となる



血糖値のコントロールが悪くなり、糖尿病が悪化!



糖尿病になると歯肉の免疫力が落ちたり、口が乾きやすくなったりする



歯周病菌が増殖しやすくなり、歯周病が悪化する



糖尿病も歯周病も治療しないと互いに影響して治療効果が上がらない!

